



初めに、ピカピカの新築社屋の会議室に案内されて、株式会社エコロジスタ山口代表取締役様よりご挨拶いただきました。施設紹介ビデオに続き、施設概要についてお話いただきましたが、群馬技管協会からは活発な質問がなされて、電気・エネルギーに対する関心の高さが伺えました。



↑ピット内の原料廃棄物



↑溶融スラグ（スラグコンベヤから出たところ）

一廃・産廃合せた処理施設で、原料廃棄物をロータリーキルン式溶融炉にて溶融し、溶融スラグを路盤材等に製品化する施設です。原料構成は、一般廃棄物ごみ焼却灰が3割、医療廃棄物が2割、残り5割は廃プラスチックとなっています。バグフィルタで捕捉された飛灰は、九州で金属回収しているとのこと。

炉の運転では、立上・立ち下げに24時間を要しますが、停電が発生すると処理に大きな影響があるため、停電時には施設全体の電力を賄う軽油自家発電機が設置されています。容量は3,000kVAもあり、2千数百kW以上の消費電力を賄えるもので、億単位の設備投資をされたそうです。溶融炉を扱うご苦労が偲ばれます。

施設の目玉として超省エネ運転に取り組んでおり、廃熱ボイラ蒸気でタービン発電を行なっています。最大1,000kW（定格900kW）で施設電力の70～80%を賄っており、熱エネルギーの有効利用によるCO<sub>2</sub>排出量の削減効果は、5,139t-CO<sub>2</sub>/年（石油代替効果2,428kl）もの成果を上げています。苦労話として、発電量が大きすぎて東京電力に逆調すると強制解列させられるので、発電量を調整しなければならないこともあるそうです。（受電契約について東電と協議中とのこと。）

溶融炉は24時間運転のため2直交代勤務365日操業とのことですが、業務の管理と職員の労務管理に目が行き届くのが大変かと思われそうですが、施設内では部外者の見学でご迷惑をお掛けしているのに、どの従業員の方も大きな声で挨拶されたのが印象的でした。きびきびとした職場の雰囲気を感じられ、会社方針としての従業員教育が徹底しているものと推察されます。挨拶の意味について考えさせられました。挨拶する立場に置かれていない業務に専念しているはずの人から挨拶されると、こちらも大きな声で挨拶を返して、単に気分がよいというだけでなく、一瞬の「意思疎通ができた」ような気にさえなりました。

施設の運営管理状況についての会員からの質問攻めに、見学予定時間を大幅にオーバーしてしまい、大変ご迷惑をお掛けいたしました。山口代表取締役様には、お忙しい中貴重なお時間を割いていただきまして、深く感謝申し上げます。

以上